

2008 年度 会報 冬号

No.21

目の不自由な方々と共に映画鑑賞を楽しむことのできる環境づくりをしています。



シティ・ライツ代表 平塚千穂子

あけましておめでとうございます。今年も皆さんに素敵な映画とたくさんの出会いがありますように。私達もいっそう活動に励んでいきたいと思います。

さて、いよいよ調布映画祭のシーズンがやってまいりました。調布映画祭は、シティ・ライツがはじめて、みんなで作った音声ガイドを発表する場を与えてくれた特別な映画祭です。おかげ様で、もう7年間も継続してバリアフリー上映を実施してくださっています。いきなり長編大作の「風と共に去りぬ」と「男はつらいよ」にチャレンジした2002年の調布映画祭では、何もかもがチャレンジの連続で、10月から半年間、死に物狂いで音声ガイドを作っていたのを懐かしく思い出します。それが今では3分の一ほどの作業時間で制作できるようになったのですから、私達もだいぶ成長したんだなぁと、自画自賛したい気持ちです。(笑)

逆に、みんなでがむしゃらに汗をかく面白さは、少しばかりなくなってしまったような気もするのですが、音声ガイドづくりは、つくる作品が変わるごとにそれぞれ苦労があって、毎回、毎回、次はどんな強敵が現れるか!と、挑みがいがあります。というわけで、またまた、いい意味で武者震いを起こしているわけです。

では、音声ガイド付き上映作品も決まりましたので、この場で発表いたします。

3月6日(金)夜の回は、第30回日本アカデミー賞 最優秀アニメーション作品賞を受賞した「時をかける少女」。恋と友情にゆれる思春期の女子の気持ちにドキドキ・ハラハラ。みている私たちが思わず青春時代にタイムリープしてしまう、すがすがしいアニメ映画です。そして、3月7日(土)の午後の回は、2006年キネマ旬報ベストテン脚本賞を受賞した「ゆれる」。これは、女性監督の西川美和が、都会と田舎、派手と地味、不真面目と真面目の対照的な兄弟の心理的な葛藤と内面を、みごとにえぐり出した秀作です。何が善で何が悪なのか、何を信じるべきなのか、私の心もかなり「ゆれる」作品でした。そして、3月8日(日)の午後の回は、2006年東京国際映画祭〈日本映画・ある視点〉部門最優秀作品賞を受賞したドキュメンタリー映画「ミリキタニの猫」。絵のうまいホームレスのおじいさんのドキュメンタリーかぁと思ったら大間違い。在米日系人の知られざる悲しい歴史を知らせてくれる秀作です。

今回、シティ・ライツでは、「時をかける少女」と「ミリキタニの猫」の音声ガイドをつくります。「ゆれる」は埼玉のボランティアグループ(映画音声ガイド埼玉 Kiitos(キートス))がすでに音声ガイドを制作していて、台本が残っているので、それを録音化して使用させていただくことになりました。

今年、助成していただいたトヨタ財団の事業で、全国各地のボランティアグループが作った音声ガイドを、みんなで共有化して、お互いの活動を支援しあう全国バリアフリー上映ネットワーク(略してABCネットワーク)を作りました。そのネットワークができたことで、こんな風に音声ガイドの活用機会を広げることができたのです。

さぁ、今年の調布映画祭も、個性的で見ごたえのある秀作がそろいました。是非、皆様に足をお運びいただき、映画を存分に 楽しんでいただきたいと思います。ボランティアの皆さんにも、これから手伝っていただきたいことが山ほどあって、事務局から も募集案内がたくさん送られてくるかと思いますので、何でもよいので、是非ご協力下さい。早速、年明けからは、「時をかける 少女」を題材に、音声ガイド勉強会をはじめます。また、「ミリキタニの猫」では、ひさしぶりにスタジオでの字幕朗読収録に取り 組みたいと思います。8年目の調布映画祭、みんなで素晴らしいイベントにいたしましょう!



~同行鑑賞作品~

このコーナーでは、10月~12月までに開催された音声ガイド付き上映会や、同行鑑賞会をレポートします。参加された皆さん、企画者そしてボランティアの方々お疲れ様でした。

- ・10月4日/おくりびと/新宿ジョイシネマ ・10月26日/容疑者Xの献身/川崎チネチッタ
- •10月26日/しあわせのかおり/シネスイッチ銀座
- ・11月15日/ハンサム★スーツ/ユナイテッドシネマ としまえん
- ・11月23日/ハッピーフライト/ユナイテッドシネマ としまえん
- ・11月21日/パコと魔法の絵本/川崎チネチッタ
- ・11月24日/ルパン三世 カリオストロの城/ユナイテッドシネマ としまえん
- ・11月30日/ブタがいた教室/新宿武蔵野館
- ・12月20日/私は貝になりたい/新宿バルト9
- ・12月28日/ウォーリー/川崎チネチッタ



同・行・鑑・賞・会・れぽ ~ 『ブタがいた教室』同行鑑賞会を終えて~ 長田 香

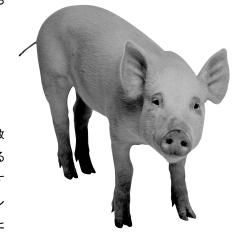
私が、この作品と出会ったきっかけは原案とされている「豚のPちゃんと32人の小学生」(黒田恭史著、ミネルヴァ書房刊)を読んだ事にありました。この本を読んだ直後の私の感想は「大人になってからでもいくらでもいろいろな経験を積む事ができるのだから何も子供にこんな酷な経験をさせる事はないのではないか?」と言う事でした。ですが、劇場で映画を観た時に子供達が必死で世話をする姿、又、心から発する言葉の数々をリアルに体現していくうちに考えが変っていきました。この映画や本が伝えたかった事は、何が正解で何が不正解と言う事でもなく、人として一番大切な「命」のあり方について考えて欲しいと言う事だと気づかされました。そして、これらに込められたメッセージを少しでも多くの方に伝えたいと切に思いました。そこで、無謀にも「同行鑑賞会をやりたい!」と言い出した訳ですが私は全くの初心者なので、実現はとても難しい状態でした。でも、新宿チームをはじめ沢山の方々の応援と協力のお陰で実現させることが出来ました。ガイドを作る際には今までの勉強会でのノウハウを復習しながら、映画の邪魔をしないように、子供達の思いが心に届くように、喜怒哀楽のいろいろな場面、風景が伝わるようにと願いを込めて作りました。ですが、当日は初めてのライブで、聞き取りづらい所、解りにくい場面も多かったのではないかと、反省しています。私にとって「ブタがいた教室」は、「命」についてだけではなく、人の心の温かさも教えてくれたとても大切な映画になりました。文末ではありますが、当日、鑑賞会に参加して下さった方々、又、鑑賞会の実現に向けて心強い協力、力強いエールを送って下さった平塚リーダーはじめ推進

室、新宿チームの皆様、勉強会でお世話になった方々に、この場をお借りして心から お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

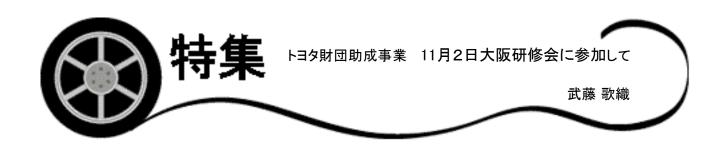
『ブタがいた教室』

監督 前田哲 出演:妻夫木聡、大杉漣、田畑智子他

解説:ドキュメンタリーとしてテレビ放映され話題を呼んだ、大阪の小学校の新任教師による実践教育を基に映画化した感動作。1年間大切に育ててきたブタを食べるかどうかで大論争を巻き起こす子どもたちの、うそ偽りのない表情にカメラが肉迫する。『涙そうそう』の妻夫木聡が教師役に初挑戦し、子どもたちと素晴らしいコラボレーションをみせる。大切な命をどうするかという結論を自らの力で出そうとする生徒た



あらすじ: 6年2組を担任することになった新米教師の星(妻夫木聡)は、食べることを前提として子ブタを飼うことをクラスの生徒たちに提案する。校長先生(原田美枝子)にも相談し、卒業までの1年間26人の生徒が子ブタの面倒を交代でみることになる。最初は戸惑っていた子どもたちも、"Pちゃん"と名付けた子ブタを次第にかわいがるようになり……。(シネマトゥデイ)



全国の音声ガイドづくりグループとネットワークをつなごうと今年から始まったトヨタ財団の助成事業。1回目は8月に研修会が催され、音声ガイドの入ったDVDをどのように映画館や上映会場で操作し、FMラジオに送信するのかを体験学習しました。

2回目の今回は、音声ガイドの台本を作ったのち、音声ガイドナレーションを収録し、映画と同期させるための音声ファイルをどのようにつくるのかがテーマでした。研修会は、東京と大阪と2か所で行われました。運営のお手伝いをしている私は、東京研修に参加できなかったこともあり、平塚リーダーの荷物持ち+補助として、11月2日の西ブロックの研修会に参加しました。

講師は2人。平塚リーダーと日本ライトハウスの林田茂さん。前半は、林田さんが、音声ガイドのナレーションを収録する方法として、録音・校正ソフト「レクディア」の操作のし方を指導してくれました。そして後半は、その収録した音声を映像と合わせたタイミングで編集する方法を、平塚リーダーがWindowsムービーメーカーを使って指導しました。参加者がどの程度のパソコンユーザーかがわからないため、東京研修の反省も踏まえて、最初にパソコン用語の説明も行われました。

浜松・京都・神戸・石川・福岡からの5つの団体が参加し、とにかく「やってみて、覚えて、帰って伝えたい」とみなさん意欲的に取り組んでいました。

私は、シーンボイス浜松代表の高林裕子さんと一緒にチームを組んで研修をしました。

「ミルコのひかり」の冒頭を例に、実際録音をしたり、編集をするのです。

私は、映画のセリフの間に合わせて音声ガイドを入れていく編集は初めての体験でした。やってみて、セリフの間に入れるのはもちろんですが、尺に余裕があるときに、どのタイミングで入れた方がよいのかというのも、音声ガイドづくり同様に、経験と研修が必要だと感じました。例えば、前倒しでの説明の場合は、次のセリフが入る直前に入れる方がよいでしょうし、前のセリフを説明する場合は、セリフの後すぐに入れるといった具合です。

この研修会は情報交換の機会にもなっています。実際に、お会いして、直接それぞれの事情や方法をうかがうことは、誤解もな



く重複制作も避けられ、実際、映画『まぼろしの邪馬台国』のように京都の 声のシネマTOMOとシティ・ライツが共同で映画配給会社に交渉、音声ガイ ドをつくるといったことも実現するなど、着実に成果が現われてきているの がわかります。

さて、ハプニングは何にでもつきもので、この研修会では、DVDの映像がなぜかグリーンのモノトーンで映るといったトラブルがあり、もうちょっとで昼食が食べられないという事態でした(大問題ですよね?)。平塚リーダーとの道中も、失敗の数々があったのですがこれは、直接お話しします。どうぞお声をかけてください。

.



一思い出は、名画とともにいつまでも一。

このコーナーでは"思い出の映画"にまつわる投稿エッセイをご紹介していきたいと思います。皆さんの汗と涙の人生をセピア色に彩る素敵な名画の数々をエピソードとともにお寄せ下さい!!

30年ぶりの再会、30年前の映画

く関 朋ー>

昨年、中学校の同窓会が行われ30年ぶりに学友と再会する。学者やら、会社役員、職人さん、刑事さん、教師、編集者、居酒屋女将、もう孫がいる人など色々現れた。会が進むにつれ気持ちは当時に戻り、いつしか子供時代の顔に重なっていく。こいつと遊んだことないが、もうみんな友達!と話が弾む。

そんな懐かしい 30 年前を思い出し、当時印象に残る映画は「メリーゴーランド」と「タワーリング・インフェルノ」があげられる。 「メリーゴーランド」は、父と子の悲しい心のふれあいを描いたイタリア映画。

幼くして母を失い、仕事に熱中する父にかえりみられない 10 歳の少年が、突然不治の病に襲われる。息子の最後の望みを叶えるため、 真夜中に遊園地へ向い、メリーゴーランドに乗る。そして息子は父に抱かれ、「僕たちもう会えないんだね。」と最後の言葉を残し・・・。 明かりの灯るメリーゴーランドはいつまでも回り続ける。今でも思い出すと泣いてしまう。

上手くは言えないが、父親の尊敬できる部分できない部分を思っていた時期かなと。

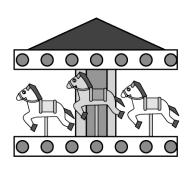
今はその父親もいないが。

「タワーリング・インフェルノ」は大火災に見舞われる超高層ビルでのパニック映画。設計者を演じるポール・ニューマンと消防隊隊長を演ずるスティーブ・マックィーンの競演作である。最後までハラハラドキドキの展開で、またスケールの大きいアメリカの現代建築にも関心をして観ていた。

その映画の活躍する設計者が印象に残っていたのか、その後自分も同じ仕事に就く。憧れを持っていたが現実は全然違っていた。若いときは徹夜続きで遊べなかったり、バブル後はいくら仕事しても給料は減っていくし、立派な建物をいくつ造っても自分の家は小さいし。その上最近は構造偽装問題で法律は改定されて、仕事は手間が増えるし、ともう大変・・・。こちらはもう今の現実に泣いてしまう。映画に関係ないところで。

映画は、30 年経っても当時のまま色あせずに印象に残り、自分の年月の色々なシーンに重なる。そして映画を話題にしながら、当時のこと、今のことなど思い、再会する友人、今の友人、これから会うだろう友人、先輩後輩などと語り合い、泣き笑いする時間を作れることがとても楽しいと思える。

そんなことを考えるようになってしまったが、歳取ってしまったかな・・・? いやいやまだまだ!



~O·T·H·E·R(ちょっと得するインフォ)~

~ 『世界に輝く小さな星』と謳われた、美少年~

「メリーゴーランド」で、白血病に冒されてしまう10歳の少年ルカを演じたのは、柔らかい金髪に ソバカスが愛らしい、1963年ローマ生まれのレナート・チェスティエです。

幼いころからCMや広告で活躍し、TVドラマで話題となった「ピノキオ」などにも出演していました。 チェスティエの健気で自然な演技と、クライマックスで流れるフランコ・ミカリッツィの美しい旋律 は、イタリア映画界の名作として、私たちの心に深く刻まれることでしょう。

「メリーゴーランド」1974年: イタリア映画

監督:ライモンド・デル・バルツォ 出演:レナート・チェスティ、ベキム・フェーミュ、アゴスティーナ・ベリ

「タワーリング・インフェルノ」1974年:アメリカ映画

監督:ジョン・ギラーミン 出演:スティーヴ・マックイーン、ポール・ニューマン、ウィリアム・ホールデン

(芳賀 昌美)



〇新規会員のご紹介

(2008年9月15日~2008年12月15日までにご入会いただいた方々です。) [正会員]・角田由美子(神奈川県川崎市在住)・川瀬康裕(神奈川県横浜市在住)

〇音声ガイド付き上映会のお知らせ

【岩波ホール 字幕朗読・音声ガイド付き上映会】

1月30日、神保町の岩波ホールで音声ガイド付き上映会を行います。ラジオのイヤフォンから、字幕スーパーの朗読と音声ガイドを聴きながら、ご鑑賞いただける、久しぶりの外国映画上映です。 是非、ご来場下さい。

上映作品「懺悔」1984年/旧ソ連映画/153分

旧ソビエトの検閲下、1984年に製作されたグルジアの名匠テンギズ・アブラゼによる社会派ドラマ。スターリンの粛清を喚起させ、ソ連崩壊につながったペレストロイカを象徴する作品で、1987年カンヌ国際映画祭審査員特別大賞を受賞。とある地方都市で高名な市長が死去し、市長の墓を掘り起こした罪で、生前の市長の独裁により家族を失った女性が逮捕される。彼女は法廷で市長の粛清の過去を告発し、埋もれつつあった悲劇の歴史を訴える。



企画: シティ・ライツ/岩波ホール

日時: 1月30日(金)

集合: 17時50分 岩波神保町ビル1階エレベーターホール

(神保町駅A6出口直結)

上映開始:18時30分~

鑑賞料:1400円。(晴眼者も一律)

参加をご希望の方は、下記のことを明記の上、doukou@citylights01.org までお申し込みください。

- 1:お名前
- 2:参加人数(複数人数で参加の方は、視覚障害者と晴眼者の内訳)
- 3:電話番号
- 4:ラジオ貸出希望の有無
- 5:食事会参加の有無
- (映画鑑賞後、近くのお店へ行って、みんなでお食事をします。
- 参加費等はありません。)



【調布シネサロン】

東京都調布市で行われる音声ガイド付き上映会のお知らせです。

2月17日(火曜日)、喜劇・駅前シリーズの第3弾。『駅前弁当』を、音声ガイド付きで上映します。

昔を懐かしんで、是非大きなホールでお楽しみ下さい。

(毎回、平日ともあって、視覚障碍者の来場者が非常に少ないシネサロン。せっかく市の行政が機会をつくってくれているバリアフリー上映会なので、もうちょっと、視覚障害者の来場数が増えないかなぁと思っています。鑑賞料も無料です。もしご都合のあう方がいらしたら、是非おこしください。)

上映作品:「駅前弁当」1961年/東宝映画/89分

監督:久松静児 キャスト:森繁久彌、伴淳三郎、フランキー堺、淡島千景、淡路恵子、花菱アチャコ、坂本九ほか。

[作品紹介] 浜松駅前の老舗の駅弁屋"互笑亭"は未亡人の景子が弟の次郎と二人で経営しているが、次郎は極楽とんぼで店は景子にまかせきり。そんな時、亭主の3回忌に集まった旧友の織物会社社長・金太郎とストリップ小屋を経営する孫作から景子に話がもちこまれた。大阪の大資本家が店の拡張をバックアップしてもよいというのだ。久松静児が監督したシリーズ中の傑作。金太郎に森繁久彌、孫作に伴淳三郎、次郎にフランキー堺が扮します。

日時:2月17日(火曜日)

場所:調布市グリーンホール(京王線調布駅南口からすぐ。)

上映開始:10時30分~と、13時30分~の2回。(音声ガイド付き)

開場時間:各回30分前

鑑賞料:無料

主催:調布市文化・コミュニティ振興財団

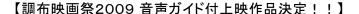
協力:シティ・ライツ

※音声ガイドをお聞きになる方は、FMラジオをご持参ください。

周波数FM88.5MHzで音声ガイドをお聞きになれます。(当日受付に

てラジオの貸出もあります。)

※どのくらいの方に来ていただけるのか心配なので、いらっしゃる方は、シティ・ライツ事務局までご一報いただけるとうれしいです。調布駅からの誘導をご希望の方も、駅からご案内いたしますので、ご連絡ください。



今年も3月に開催される調布映画祭で、シティ・ライツが音声ガイドに協力します。1年に1度のお祭りですので、シティ・ライツのボランティアスタッフー同も、年末からガイドづくりに向けて、総力をあげて取り組んでいます。是非、ご期待ください。 下記のとおり、日程と作品が決定いたしましたので、ご案内いたします。

上映時間やお申し込みについての詳細は、追ってメーリングリスト等でお知らせします。

メールをお使いでない方は、2月20日過ぎにシティ・ライツ事務局まで、お電話でお問い合わせください。



★3月6日(金) 夜の回 会場:調布市文化会館たづくり 2F くすのきホール

『時をかける少女』 2006年/アニメ映画/100分 監督 細田守/原作筒井康隆 (あらすじ) 明るく元気な高校2年生、紺野真琴は、優等生の功介とちょっと不良の千昭と3 人でいつもつるんで野球ばかりして楽しい毎日を送っていた。そんなある日の放課後、真琴は理科準備室で、突然現れた人影に驚いて転倒してしまう。その後、修復士をしている叔母・芳山和子のもとへ自転車で向かった真琴は、ブレーキの故障で踏切事故に遭ってしまう。死んだと思った瞬間、真琴はその数秒手前で意識を取り戻す。その話を和子にすると、和子は意味ありげに、それは"タイムリープ"といって年頃の女の子にはよくあることだと、冗談とも本気ともつかない説明をするのだった。最初は半信半疑だったが、いつしか使い方を覚え



て些細な問題でも簡単にタイムリープで解決してしまい、すっかり調子に乗る真琴。そんなある日、真琴は千昭から突然の告白を受ける。3人の友だち関係がいつまでも続くと思い込んでいた彼女は、動揺のあまり、タイムリープで告白そのものをなかったことにしてしまうのだが…。これまで何度もテレビドラマや映画で映像化されてきた筒井康隆の名作小説「時をかける少女」の初アニメ化。

★ 3月7日(土) 午後の回 会場:調布市文化会館たづくり 2F くすのきホール



『ゆれる』 2006年/日本映画/119分

監督・脚本 西川美和 出演:オダギリジョー、香川照之、伊武雅刀、真木よう子 ほか。 (あらすじ)東京で写真家として成功し、自由奔放に生きる弟・猛(タケル)。

母の葬式にも顔を出さなかった彼は、その一周忌に久々に帰郷し、そこで父と共にガソリンスタンドを経営する兄・稔と再会する。猛は頑固な父とは折り合いが悪かったが、温厚な稔がいつも2人の間に入り取りなしていた。翌日、兄弟はガソリンスタンドで働く幼なじみの智恵子と3人で近くの渓谷に足をのばす。ところが、川に架かる細い吊り橋で、智恵子が眼下の渓流へと落下してしまう。そして、橋の上には呆然とする稔の姿が。橋の下にいた猛は惨事に気づき、動揺する稔のもとに駆け寄り落ち着かせる。兄弟の証言から、最初は不幸な転落事故と思われたが、数日後、稔が突然"自分が突き落とした"と自供したことから、事件の真相を巡って裁判へともつれ込む。猛は弁護士である伯父を立て、稔の無実を晴らそうと

努めるが…。「蛇イチゴ」で注目を集めた新鋭・西川美和監督が、オダギリジョーと香川照之という実力派2人を迎えて贈る上質のミステリー・ドラマ。対照的な兄弟の間に巻き起こる心理的葛藤が巧みな構成で緊張感いっぱいに描かれてゆく。

★ 3月8日(日) 午後の回 会場:調布市文化会館たづくり 2F くすのきホール

『ミリキタニの猫』 2007年/アメリカ映画/74分

監督:リンダ・ハッテンドーフ 出演:ジミー・ツトム・ミリキタニ、ジャニス・ミリキタニ、ロジャー・シモムラ ほか。

(あらすじ)ニューヨークの路上で絵を描き続ける80歳の日系人画家、ジミー・ミリキタニの誇り高き反骨の人生を見つめた感動のドキュメンタリー。カリフォルニアに生まれたジミーは、その後母の故郷広島で育つが、強まる軍国主義を逃れて18歳でアメリカに帰国する。しかし第二次大戦中に日系人強制収容所に送られた彼は、アメリカ国家に抵抗して自ら市民権を放棄する。以来、様々な社会保障も受けられず、やがては不運も重なりニューヨークで路上生活を送ることになるが、自由と不屈の精神を失うことはなかった…。本作は、彼の絵を買ったのが縁で、ときおり彼を撮影していたリンダ・ハッテンドーフ監督が、911テロの直後、彼を自宅のアパートに招き入れ、2人が奇妙な共同生活を送る中で、彼の数奇な人生が次第に明らかとなっていくさまがカメラに収められていく。





(会報編集課 ノンちゃん)

今年も着々とシティ・ライツ映画祭の準備を進めています。と言っても、この原稿を書いている12月半ば現在、ようやく会場と日程が決まり、上映作品もなんとか決まりそうというところです。実はここまでには大変ドラマチックな二転三転の裏話がありまして・・・。ここでそ

のほんの一端をご紹介してみたいと思います。

というのも、早々に引き当てて喜んでいた「みらい座池袋」の設備があまりに古く、何より音声がモノラルだったり、スクリーンサイズが小さすぎたり、客席の椅子がお尻の痛いものだったということが判明し、慌てて、半年前の予約でも間に合うところを探し始めたのが10月半ば。映画祭の日程は2009年5月ですから半年前と言えば、抽選日が11月となるので、まさにぎりぎりセイフの状態でした。そんな中でも手ごろなところがなかなか見つからずにいたところ、抽選日の前日に平塚リーダーが見つけたのが江戸東京博物館のホールだったのです。さすがは我がリーダーです。

底知れない力の持ち主ですよね。そこで滑り込みで抽選に参加し、なんとか引き当てたのが5月5日だったというわけでした。

ゴールデンウィークの中、皆さんいろいろとお忙しいとは思いますが、この日だけはなんとしても、シティ・ライツ映画祭のためにあけておいてくださいね。次号の会報では、もっともっと詳しく映画祭へのお話をしたいなあと思っておりますのでお楽しみに!

(会報編集課 芳賀)

先日、家族で温泉旅行に行きました。山梨の石和温泉にある、ひなびた旅館ですが、温泉は最高でした。

桃の湯、柿の湯、ぶどうの湯。ゆっくり温泉につかり、幸せ気分を満喫しました。

ところが、私たち家族を悲しみのどん底(?)につき落とす、そんな事件が起きたのです。

帰る日の朝、妹が「結婚指輪がない!」と騒ぎ出しました。

旅館中を探しまわり、ゴミ箱までひっくり返しましたが、見つかりませんでした…。

みなさん。くれぐれも、温泉旅行にはアクセサリー禁止で、お願いいたします(涙)

(会報編集課 吉川)

秋号を発行したあたりから、世界規模でエコノミーが激変しました。しかも悪いほうへ。最近のニュースを聞いていると、不況の報道 ばかりですね。あのトヨタですら赤字ですから、年度末には恐ろしいことになっているのかもしれません。自分の勤め先も今年は赤字 が決定的と聞きました・・・。みんな苦しいのですから自分にも痛みが来ることは想定内、多少のことでは驚かなくなり、だいぶ免疫がついてきました(笑)。

ー寸先は闇、といいますがこういう状況になると真っ先に影響を受ける非正社員の方々は気の毒でなりません。自分の周りでもそういう人がいらっしゃいました・・・。まあ、THIS CASEはアメリカ発ですし誰のせいでもありません、そして努力しても(簡単には)はよくなりません。大切なことはしっかり勉強し、日ごろから健康に気をつけることだと強く感じています。「昨日よりも前進」という意識をもって日々生活していこうと思います。

私たちと一緒に会報づくりをお手伝いしてくださる方を募集しています!興味のある方は、kaihou@citylights01.org までご連絡下さい!待ってま~す.

お忙しい中、今回の会報作成に協力いただいた方々には、大変感謝しております。ありがとうございました。皆さまの投稿を、心よりお待ちしております。宛先は、kaihou@citylights01.org。次回の発行は4月10日。投稿される方は、3月第2土曜日までにお願いします。『会報のデータ送信』を希望の方には、会報のテキストメール送信にも対応します。ご希望の方がいらっしゃれば、会報編集担当アドレス < kaihou@citylights01.org > まで、氏名と会報の送信を希望するメールアドレスを記入して、お申し込みください。

..........

2008年度 冬号 2009年1月10日発行

編集: 吉川俊平、斉藤恵子、芳賀昌美発行者: バリアフリー映画鑑賞推進団体 シティ・ライツ 事務局:〒114-0016 東京都北区上中里 1-35-15 TEL&FAX 03-3917-1995

E-mail mail@citylights01.org URL http://www.citylights01.org

